

兄いもうと（1936）

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 60分

初公開日 1936/06/21

【解説】

室生犀星の短編小説『あにいもうと』を、江口又吉が脚色し木村莊十二が監督した「傾向映画」のひとつ。1953年に成瀬巳喜男、1976年には今井正が、それぞれ「あにといもうと」というタイトルで再映画化している。

寒村の川原で堤防を作る人夫頭の赤座には、妻と三人の子供がいた。長男の伊之、長女のもん、次女のさんだ。東京へ女中奉公に行っていたもんが帰ってくるが、彼女は奉公先で出会った小畑という学生の子供を妊娠していた。しかしお腹の子供が死産し、もんは家を飛び出してしまう。しばらく後、小畑がもんを連れて赤座家を訪れた。父親に止められ来ることができなかったことを詫げる小畑に、赤座は理解を示す。しかしたまたま帰宅した伊之は、小畑を土手に連れ出し暴力をふるってしまった。

【クレジット】

演出 木村莊十二

原作 室生犀星

脚色 江口又吉

撮影 立花幹也

編集 岩下広一

音楽監督 近衛英麿

演奏 P. C. L. 管弦楽団

出演	小杉義男	父	赤座
	英百合子	母	りき
	丸山定夫	兄	伊之
	竹久千恵子	妹	もん
	堀越節子	妹	さん
	大川平八郎		小畑